

51 A・F・ボードインの大坂病院における診療記録と眼科記録ノート

中山 沃

オランダ一等軍医正A・F・ボードイン(二八二二—一八八五)は文久二年(一八六二)ポンペの後任として長崎養生所の教師として来日、その後、二度帰国。慶応四年(一八六八)三度めの来日の際には幕府は倒れ、彼の活動の場は無くなっていった。明治二年(一八六九)二月末、大坂上本町四丁目大福寺に緒方惟準を院長とする浪花仮病院が発足した。ボードインはこの病院の教師として招かれ、医師、医学生に講義をおこない、また外来・入院患者の診療にあたった。明治三年(二八七〇)二月には東区鈴木町代官所跡に新たに病院、医学校が建築され、移転した。同年十二月彼の講義録は大坂医学学校官版「日講記聞(泌尿生殖器篇)」として刊行された。その他の講義録や診療記録についての報告は見あたらな

い。演者は彼の大坂仮病院における「診療記録の写し」と考えられる未製本の冊子と大坂医学学校における眼科講義筆記録(三巻一冊)を調査したので報告する。

(一) 診療記録…これは緒方洪庵の夫人八重の実家億川家の旧蔵。表紙は無く、元は一冊として綴じられているものが、ばらされて順序不同である。最初と思われる一から三ページの上欄に「毒薬」として、腐蝕亜鉛加里以下二一の薬品が記され、各毒薬の下欄に「消毒(解毒)」として多数の薬剤・物質が記されている。この末尾に「慶応二己春二月於浪花大病院 和蘭海軍第一等医管(官) 抱度英列綿布篤」(これは明らかにあとでの加筆で、年号は誤り)、その裏(四ページ)の第一行に、「明治巳二月廿六日初」と書かれ、次行から受診者名・年令・症状・治療薬などの診療記録が書かれている。患者総数二一二名(男性一五三名、女性五六名、性別不明三名)年令は三歳から六四歳までである。疾病は内科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉、皮膚、泌尿、性病、婦人病の多方面にわたっている。ほとんどが薬剤投与だけであるが、三例で手術を行っている。(一) 手指断落、手術で

脱落部の残りを切り落とす。(二) 膝関節付近の腫動している部位を漢方医が穿刺し出血多量のため、鼠蹊下動脈結紮(入院)―この症例だけ九月二八日入院と記されている。(三) クロロホルム嗅法により銃創の右腕の断骨。一例の肘関節痛にエレキテルを施している。

(二) 眼科講義ノート…ポードインが大坂医学校で講義を行い、それを筆記したと考えられる「眼科新書」巻一、二、三巻合して一冊としたものである。表紙の題簽には「眼科新書 自一至三」、見開きには、「眼科新論」と記され、本文は薄葉雁皮紙である。目次は巻之一から巻之三まで六丁、本文の巻之一は六一丁、巻之二は八四丁、巻之三是五八丁、合計二〇九丁、四一八ページである。

巻之一の本文の冒頭に、「大坂医学校教頭和蘭医官抱独英 口授」と記され、巻之二、巻之三では、「和蘭抱篤英 口授」と記されている。巻之一には図が描かれているページは八ページ、巻之二は十八ページ、巻之三是二四ページである。この口授内容がオランダの眼科書を読み上げるのみの講義録ではない。随所に、「日本二

於テ」とか「日本ニ在テハ」、「日本人ニハ」あるいは「此病院ニ於テモ」とか「当院切断ニ於テ」などの記述が見られるからである。訳者の名前は記されていないが、医員の緒方惟準、緒方郁蔵らの通訳により翻訳、口述され、生徒たちが筆記したものであろう。巻之一…眼内部検査法に始まり、結膜・鞏膜・角膜の諸疾患と治療法。

巻之二…角膜外傷に始まり、虹彩・水晶体・屈折異常(近視・遠視)の疾患と治療法。巻之二…硝子液(体)・網膜・視神経・毛様体の疾患と治療法を述べている。そして末尾は、「尚ホ眼瞼諸病及ビ光線屈曲病且ツ涙囊尿管涙腺等ノ諸病アリト雖ドモ他日又タ論ゼン」で終わっている。

(川崎医療福祉大学)